

機能的筋力低下の特徴に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2018年8月16日～2022年3月31日

〔研究課題〕 転換性障害患者の筋力低下の特徴に関する後ろ向き研究

〔研究目的〕 転換性障害、即ち主として心因性に神経障害を出す病態は、神経内科外来患者の1割を占めるとも言われる common disease で、その診断、器質的疾患との鑑別は大きな課題です。これまでに様々な徴候が報告されているが、これらはまだまだ不十分です。一般臨床では、転換性障害による運動麻痺(以下「機能的筋力低下」)の患者さんが器質的疾患と誤診されたり、あるいは原因不明とされたり、また、器質的疾患の除外のために多くの検査がなされ、医療費の無駄となっていることが多く見受けられます。研究責任者の園生は2004年に協働運動を利用して下肢の一側性麻痺が機能的であるか器質性であるかを鑑別する徴候を abductor sign として報告しております。園生は現在までにこれ以外に複数の機能的筋力低下診断に役立つ臨床徴候に気付いており、これを一定のエビデンスに基づいて報告することは、神経学医療を発展させるために必要な責務であると感じており、本研究ではそれを目指します。

〔研究意義〕 機能的筋力低下を正確に診断し、不要な検査を回避できるとなれば、意義が大きいと考えます。

〔対象・研究方法〕 2016年以降2022年3月までの、当科及び関連施設(横浜労災病院、東京慈恵会医科大学医学部附属病院、亀田総合病院)で筋電図検査に紹介された患者さんの神経学的所見、電気生理学的検査、画像検査を後ろ向きに検討し、エントリー基準を設けて機能的筋力低下の患者さんを抽出します。それらの症例の種々の臨床特徴と、針筋電図所見を検討します。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院神経内科

〔個人情報の取り扱い〕 収集したデータは、個人毎に匿名化したデータとしてデータ管理責任者が常時施錠される医局内のコンピュータのハードディスクに責任をもって保管し、パスワードを設定して研究責任者及びデータ管理責任者以外がアクセスできない体制とします。研究終了後には研究責任者が保管の対象となる記録類一式をDVD-Rに記録し、封かん用封筒に詰め、倫理委員会事務局に提出します。TARCによる保管期間は研究終了から10年であり、研究責任者から延長の申し出がない場合は、TARCにより適切に破棄されます。また、学会論文等での公表は集計結果のみであり、個々人の情報は提示しません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 主任教授 園生雅弘

研究分担者: 准教授 畑中裕己

所属: 帝京大学医学部神経内科学講座

住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211(代表) [内線 7066]